

熊本県立八代中学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標
<p>「平成28年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「平成28年度義務教育課取組の方向」を基盤として本校の綱領である「誠実にして真理を愛する」「自律を旨として協和を重んずる」「闊達にして進取の気象を尚ぶ」を教育理念の根幹におき、校長を中心とした指導体制のもと、文武両道の風風を尊重し、着実に日々の一つの教育活動を実践し、学校活性化を目指す。また、全職員が一致協力し、家庭、同窓会、地域社会との密接な連携を図り、基本的な生活習慣の確立を基礎・基本に据え、人間力をもった社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>ア 志を高く持ち、自ら学ぶ生徒の育成 イ 心身ともに逞しく、豊かな人間性を備えた魅力ある生徒の育成 ウ 他者への思いやりを大切に、社会に貢献できる生徒の育成</p>

2 本年度の重点目標
<p>ア 組織力の向上 イ 生徒指導の充実 ウ 学力の向上と進路指導の充実 エ 豊かな心の育成と体力の向上</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	中高一貫教育の推進	◇6年間を見通した中高一貫教育グランドデザインの再設計による中学での指導内容の明確化	○中学、高校の学級編成のあり方、教育カリキュラムの検証を行い、より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。	・調査・検証に基づき、中高職員間の共通理解を図り、6年間のシラバスを作成し、生徒に配付して内容の確認を行う。	B	◎効果的なカリキュラム編成が行えた。 ◎数学・英語の授業進度について今後検討することの確認がとれた。 △教科指導グランドデザイン作成が遅れている。
	グローバルな人材の育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルを身に付けるための基礎力養成	○学校設定科目「対話力」を中心とした総合的なコミュニケーション能力を育成する。 ○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ300名以上を目指す。	・NIE、ディベート、M E S E、ビブリオバトル、知の触発等を通して言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・活動の様子についてはHP等で常に公開する。	A	◎学校設定科目「対話力」を年間を通して行うことができた。 ◎グローバルアクション通信が定着した。 ◎HP公開の頻度が増加した。 △活動状況を更に外部へ発信することが必要。 △自己研鑽活動への参加意欲が高まったが、参加者は143名であった。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニング等の導入による科学的な学習指導理論に基づく授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブ・ラーニング実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への積極的参加やスパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・年2回実施する生徒による授業評価や、各教科年2回の研究授業を実施する。	B	◎生徒の学校評価では、87.2%が肯定的な意見であった。 △「思考力・判断力・表現力」の向上に結びつけるために生徒の実態に合わせた指導方法、実施の頻度等の研究が必要。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、80%以上の生徒が目標を達成している。	・シラバスの活用や定期的な課題の配付による学習のペースづくりを指導する。 ・年3回、期末考査前に学習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	C	◎帰宅後の時間を有効に利用できる生徒が増加している。 △「目標とする家庭学習時間を確保できている」生徒は、50.9%であった。 △学習の習慣化が進まない生徒への次の手立てが必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の明確化と新しい大学入試に対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの設計	○変化する大学入試に求められる学力の3要素を育成する6年間の指導方針を再設計する。	・様々な自己研鑽、社会貢献活動への参加体験を通して、社会との関わりを意識させ、自己の進路を考えさせる。	B	◎生徒の志望校選択の助けとなる講演会等を実施することができた。 ◎地震の影響はあったが中大連携の行事をすべて提供することができた。 △中学を含めた6年間の進路指導グランドデザインの再構築を急ぐ必要がある。
	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇個人の活動体験データのポートフォリオ形式での蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会などを他の部署と協力して実施する。	B	◎講演会やワークショップは生徒の参加も多く充実した。 △記録としてファイルに残す際の形式や方法などの検討が必要。
生徒	問題行動の未然防止	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○校則、心得100% 遵守を目指す。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・校内での生徒情報の共有を図るとともに学校からのメール配信や保護者との情報交換を密に行う。また、情報機器の使用を指導する。	A	◎年間を通して全職員共通した基準で整容指導を行うことができ、基本的な生活習慣が定着した。 ◎携帯電話の使用マナーを集会などで徹底した。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	自治的活動の推進	◇自治活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○年間計画に沿った月、週毎の目標を立て、達成率100%を目指す。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・ボランティア活動を積極的に推進する。	A	◎鳳雛祭では生徒が主体的に企画運営に携わり、成功に貢献した。 ◎委員会活動はほぼ計画どおり実行できた。 ◎ボランティア活動に積極的に参加できた。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進するために、外部各研修会に1人1回以上参加する。	・年2回、各学年単位で人権部落問題学習を実施する。 ・年1回、校内人権集会を実施する。 ・地域主催の人権集会をはじめ、各種研修会への参加を促す。	A	◎校内人権部落問題学習で部落問題、女性解放運動、水俣病問題を取り上げた。 ◎関係団体との連携を進めることができた。 ◎職員がフィールドワークを行い、部落問題の認識を深めた。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障害がいの有無や個々違いを認識してお互いを支えあい、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○授業時や学校生活の中できめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年2回実施する。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的積極的な支援にも取り組む。	・支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ・人権教育部会や特別支援教育委員会を通して個別の支援計画をたて、支援する。	A	◎生徒理解の職員研修を2回開催し、生徒一人一人の状況把握に取り組んだ。
	命を大切にす る心を育む指導	◇他の生命を尊び、大切にしていることとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動を通して「命を大切にす る心」を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動を通し、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・教科指導において関連する学習内容を確認して、年間を通じた指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	◎各教科領域等で人権問題を取り上げ、命を大切にす る心を育てる指導を行った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見、重大事案への対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇早期発見早期対応 ◇重大事件が発生した際の適切な対応	○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。 ○スクールカウンセラーや関係機関との連携をすすめる。	・重大事件が発生した際のいじめ問題対策委員会開催、その後の関係機関との連携などの対応について、職員研修で全職員の共通理解を図る。	B	◎いじめ防止対策委員会を通して、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの早期発見・事前防止と対策を行った。 ◎教育相談についての職員研修を年2回実施し、すべての生徒の情報を共有し、支援体制を構築した。 ◎心のアンケートを年8回実施して実態把握に努めた。

4 学校関係者評価

◎生徒は先生の指導のもとしっかりと学習しているが精神面の指導も必要。PTAも情報を共有して学習環境の整備を行う。
◎日々の積み重ねを感じた。グローバル人材育成は中高の柱と感じた。将来の職業観を根底に進路指導を行ってほしい。
◎校長のリーダーシップのもと、縦横の連携がとられた教育活動が展開されている。
◎教師集団が一体となり理念実現に向かい良い状態である。保護者評価が高いのは良いことであるが、今後生徒の学習意欲喚起が必要である。
◎中高一貫教育校としての方策が良い。生徒の家庭状況に応じた進路指導とともに、生徒が完全燃焼する学校生活を送るよう指導してほしい。

5 総合評価

○グローバル人材育成に関する各種取り組みは定着しつつあり、今後の更なる発展が期待される。
○アクティブラーニングをはじめとした、指導方法の改善については概ね取り組まれている。
○ポートフォリオを利用した指導は効果的であった。今後はそのデジタル化を目指し、より活用しやすいものをする。
○生徒指導は概ね計画的に進められたが、交通事故の件数が減少しなかったため、指導を継続していく必要がある。
○人権教育を計画的に進めることができた。今後生徒一人一人のより詳細な状況把握に努めていく。
○いじめ防止対策については発見時の組織的な早期対応を念頭に、更なる整備を進めるとともに、いじめの予防的指導にも努めていく。

6 次年度への課題・改善方策

△再構築した中高一貫教育ランドデザインを早期に示す必要がある。
△生徒が目標とする家庭学習時間を確保できるような指導を重ねていく。
△交通ルール・マナー、情報モラルについては、日常的指導を継続していく。
△学校全体を通じた行事の見直しと精選を行わなければならない。